5 ５分間をどう使う？

（公式ルール２-２より）

ライブ感が大切！とはいっても、いきなり５分間しゃべれと言われたら言葉につまってしまいそう。それに、何時間もかけて読んだ好きな本の魅力を５分間につめ込むのは難しい！
そこで、５分間の使い方の一例をご紹介しましょう。

◆最初の１分：観戦者のハートをつかむ！
→本のタイトルのキーワードを紹介する、本との出会いを紹介する、など
◆中盤の３分：推しポイントの紹介！
→「この本でみなさんに伝えたいポイントは３点です！」など、最初に宣言してから紹介すると、聞き手が意識を向けやすい
◆最後の１分：まとめの時間！
→中盤のおさらい、そして最後のしめくくりの言葉！
◆身振り手振り、声のトーンなど…全身を使って紹介しよう！

6 楽しいビブリオバトルにするために

（公式ルール３-２より）

ビブリオバトルは、本を通したコミュニケーションゲーム。バトラーも観戦者も、すべての参加者が楽しい時間を過ごせるように、次のことを意識してほしいなと思います。

◆「勝つこと」だけにこだわらない
→ビブリオバトルのメインは「本を紹介する喜び、本と出会う喜び」をバトラー自身が感じること。「良いスピーチをしなきゃ…」「立派こと言わなくちゃ…」と気負わず、楽しむことを第一に考えてくださいね。あなたの楽しさが伝わることが、結果的にはチャンプ本へとつながるはずです！
◆ほかのバトラーと交流してみよう
→５分間の発表の後に、２分間のディスカッションタイムがあるので、ぜひほかのバトラーに質問をしてみよう。壇上での発表はみんな緊張しているはず。バトラー仲間からの質問は、なによりもお互いの緊張をほぐしてくれるはずです。本を通じて集まった者同士の交流を楽しもう！

参考・参照：知的書評合戦ビブリオバトル公式ウェブサイト（https://www.bibliobattle.jp/）
編集・発行：福島市立図書館

知ればもっと楽しめる！

ビブリオバトルのススメ by 福島市立図書館

①「ビブリオバトル」って？
②ビブリオバトルのルール
③どうして「自分で選んだ本」なの？
④原稿を用意しちゃいけないの？
⑤５分間をどう使う？
⑥楽しいビブリオバトルにするために



1 ビブリオバトルって？

ビブリオバトルは、京都大学のとある研究室が「イイ本に出会えるしくみ」として編み出した本の紹介スタイルが原型となっています。「５分間という短い時間」の中での、「即興性（ライブ感）」を重視した発表が、ビブリオバトルの醍醐味です。
「知的書評合戦」とも呼ばれているので、「なんだかハードルが高いな…」「難しそう…」と思われがちですが、そんなことはありません。だってビブリオバトルは、くだけた言い方をすれば「推し本の推しポイント語り」に他ならないのですから！
「人を通して本を知る。本を通して人を知る」がビブリオバトルのテーマ。好きな本について語ることは、その本の魅力、そしてその本が大好きなあなた自身の魅力を紹介することにつながります。
ビブリオバトルは、本好きの人のための、本好きの人による、本を通したコミュニケーションゲームなのです。

2 ビブリオバトルのルール

※詳細は２ページ目「ビブリオバトル公式ルール」をご覧ください。

福島市立図書館の主催するビブリオバトルは、
・発表　５分間
・ディスカッション　２分間
で行います。

また、福島市立図書館独自ルールとして、
【紹介する本は、雑誌・コミック・バトラーおよびバトラーが所属する団体が作成・出版に関わっている本は除く】を追加しています。

ビブリオバトル公式ルール紹介動画

ビブリオバトル公式ルール

1. **発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる.**
2. **順番に1人5分間で本を紹介する.**
3. **それぞれの発表の後に，参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分間行う.**
4. **全ての発表が終了した後に，「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が1人1票で行い，最多票を集めたものをチャンプ本とする.**

＜公式ルールの詳細＞

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる.
   1 他人から推薦された本でもかまわないが，必ず発表参加者自身が選ぶこと.
   2 それぞれの開催でテーマを設定してもよい.
2. 順番に1人5分間で本を紹介する.
   1 5分が経過した時点でタイムアップとし，速やかに発表を終了すること.
   2 発表参加者はレジュメやプレゼン資料の配布などはせず，できるだけライブ感をもって発表すること.
   3 発表参加者は必ず5分間を使い切ること.
3. それぞれの発表の後に，参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分間行う.
   1 ディスカッションの時間では，発表内容の揚げ足を取ったり，批判的な問いかけをしてはならない．発表内容でわからなかった点の追加説明を求めたり，「どの本を一番読みたくなったか？」の判断に必要な質問を心がけること.
   2 参加者全員が，お互いにとって楽しい場となるよう配慮すること.
   3 質疑応答が途中の場合などはディスカッションの時間を多少延長しても構わないが，当初の制限時間を大幅に超えないように運営すること.
4. 全ての発表が終了した後に，「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員が1人1票で行い，最多票を集めた本をチャンプ本とする.
   1 発表参加者も投票権を持つ．ただし，自身が紹介した本には投票せず，他の発表参加者の本に投票すること.
   2 チャンプ本は参加者全員の投票によって民主的に選ぶ．一部の参加者（司会者，審査員，教員など）に決定権が偏ってはならない.

参加者は発表参加者，視聴参加者よりなる．参加者全員という場合にはこれらすべてを指す.

（令和8年4月10日現在　知的書評合戦ビブリオバトル公式ウェブサイト確認）

福島市立図書館独自ルール

・紹介する本は、雑誌・コミック・バトラーおよびバトラーが所属する団体が作成・出版に関わっている本を除く

3 どうして「自分で選んだ本」なの？

（公式ルール１-１より）

「チャンプ本を狙うなら、有名な本や先生が薦めてくれた本を選んだほうがいいんじゃないの？」

もちろん、おすすめされた本を「自分で読んでみて、好きになったなら」紹介する本に選んでok です。ですが、ただ薦められたからという理由だけで選んでしまうと、紹介する内容に困ってしまうことになります。

自分の好きな本を紹介するということは、実は「わたしはこういう本が好きで、こういう考えを持っている人なんです」という自己紹介でもあります。その人の好み、考え方が込められた紹介だからこそ、聞き手は「わたしと考え方が近いのかも！」と共感したり、逆に「わたしも同じ本が好きだけど、人によってこんなに考え方が違うんだ！」と新たな発見をしたりできるのです。

好きな本を紹介しあうということは、お互いを知るチャンス。そして、本を通してコミュニケーションが生まれ、また新たな人や本とつながるチャンスなのです。

ぜひ、自分が一番「好き！」と思う本を選んで参加してみてくださいね。

4 原稿を用意しちゃいけないの？

（公式ルール 2-２より）

ビブリオバトルで重要なのが、「即興性（ライブ感）」。「その場にいるみんな」に向けた言葉を語ることです。

自分が好きになった本には、好きになるだけの理由があったはず。その理由を熱く語って、「こんなイイ本があるんだよ！みんなにも読んでみてほしいんだよ！」という生き生きとした思いをぶつけるのがビブリオバトルです。

原稿を用意してしまうと、ただ読み上げるだけの「死んだ語り」になってしまいがちです。文章としての正しさ、説得力を重視するより、「推し本の推しポイント」を存分に盛り込んで、あなたの思いをぶつけてください！

（それに、ビブリオバトルはゲーム【遊び】です！なによりもバトラーのみなさん自身に発表を楽しんでもらいたいなと思います。）

言いたいことのちょっとしたメモや、ページにふせんを貼る…などの工夫は OK！
自分の言葉で発表してみよう！公式サイトや Youtube にあがっているビブリオバトルの動画も参考にしてみてね！

